

議がないものの、これまでの経過や今後の進め方に対する不安が強く出されています。

### 区に要望書を提出

2つの会では、この間の経緯をふまえて区に要望書を提出しました。要望したのは2つの事項です。

1つは、2つの会や地区住民の合意形成に配慮した進め方をするためには、話し合いの時間が必要なのでスケジュールを延期してほしいこと。もう1つは、プレーパークの検討にあたって、維持管理にもかかわる可能性がある2つの会の会員が随時参加できることです。

### 区からの回答を受けて

これに対して区からは、第1回の検討会は準備会として、本格的には8月26日から検討を開始する方向で、若干の延長を行うという回答がありま

した。参加者については検討会の運営上メンバーを固定して協議したいので、随時の参加は認められないという回答です。ただし、公募委員としての参加は、締めきりを過ぎていますが、所定の手続きを踏めば参加できるとのことです。また、プレーパークの運営について協議する段階からは、広く地元住民の方に参加していただきたいと回答しています。

2つの会では、区の返答を受けて、再度協議を行いました。その結果、会の代表4名を推薦し、検討会に参加することにしました。

プレーパークを子供たちの遊び場として実現することは、防災まちづくりにとっても、ひろばにとっても望まれることですが、一方で防災公園や防災センターの計画との整合を図る必要があります。またプレーパーク検討会の皆さんに、これまでのまちづくりの経過を判っていただき、運営についても地元からの意見を伝えることが必要です。

池袋本町  
**防災まちづくり**

News  
**no. 26**

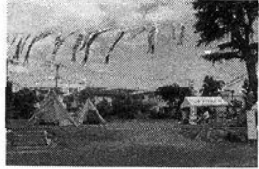
発行：池袋本町防災まちづくりの会  
豊島区住環境整備課防災地区係  
問い合わせ先：住環境整備課防災地区係  
TEL 03-3981-0489  
編集協力：(株)防災&都市づくり計画室

2002年8月31日発行

第6回 防災まちづくり祭 **今年も盛況のうちに** 今年の防災まちづくり祭は、本町防災ひろばを会場に開催され、300人以上の方が参加されました。

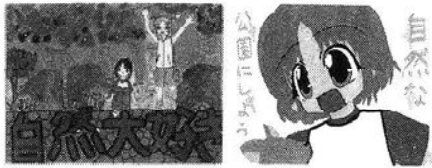
### たくさんのお魚が広場の空を遊泳！

今年の防災まちづくり祭の新しい企画は鯉のぼり。地区外も含めて16名の方が鯉のぼりを寄付してくださり、たくさんのお魚が本町の空を泳ぎました。いただいた鯉のぼりは大切に保管し、来年も泳がせます。



### 子ども防災ポスターコンクール

子ども防災ポスターコンクールは、池二小と文成小の6年生に参加を呼びかけて行いました。今年のテーマは「防災ひろばでの遊び」。コンクールは会場にお見えになった方が好きな絵に投票して行いました。その結果、池二小の渡邊佳未さんと文成小の山崎あいさんの作品が特別賞に選ばれました。



### 防災まちづくりの会・本町防災ひろばの会 新会長に小島建之氏を選出

名取会長の逝去に伴い、防災まちづくりの会と本町防災ひろばの会では後任の会長を選出しました。新しい会長には池袋本町二丁目町会長、第11地区区政連絡会委員長の小島建之氏が選ばれました。

**訃報** 去る7月1日、池袋本町防災まちづくりの会の初代会長、名取芳治さんが亡くなられました。故名取芳治さんは、池袋本町郵便局長を務められるかたわら、1988年（昭和63年）に池袋本町四丁目町会長に就任され、郵便局退官5年後の95年、豊島区第11地区区政連絡会委員長に就任されました。また、翌96年に結成された「池袋本町防災まちづくりの会」、その4年後に結成された「JR職員住宅跡地検討会」（現「本町防災ひろばの会」）の会長として、地区の防災まちづくりの先頭に立って活躍されました。しかし残念ながら、約1年前、「第1回石ひろい大会」参加されて間もなく、公務中に転ばれ以来、体の不調が続き、闘病を続けられましたが、ついに帰らぬ人となりました。惜しい方を亡くしたという思いでいっぱいです。せめて「ひろば」の完成をともに喜び合いたかったと思います。会結成の当初より、名取さんと一緒に活躍されて来られた池袋本町中央町会会長、第11地区区政連絡会副委員長の大沢登美治さんにお話を伺いました。ご冥福を心よりお祈り申し上げます。合掌

名取さんは、優しさ、穏やかさと同時に芯の強さ、信念のようなものを奥底に秘めていた方です。しかし名取さんのパワーは、あの華奢な体格のどこから湧いてきていたのでしょうか。4年前「他の地域とは違う開い」とマスコミから評価された「オウム騒動」が終わった時には、豪達むんじやないかと心配していましたが、その後も相変わらず、私なんかよりよっぽどお元気でした。昨年、自転車に乗っていて転ぶまでは……。とても八十歳とは思えないほどお元気でしたよ。告別式の時息子の彰さんが「父は防災まちづくりに対して、特別の気持ちを見せていました。完成を見とどげずに倒れたとは、さぞ心残りだったことでしょう。」とおっしゃっていましたが、本当にそう思いますよ。とても残念です。（大沢登美治）

## まちの歴史 氷川神社の池袋富士塚

富士塚は、さまざまな理由から富士登山ができない人たちも、これに登れば富士山に登ったのと同じ霊験が得られるとして、江戸時代後期以降、現東京都域および近隣地域に各富士講集団を単位として築造されたものである。高さ約5メートル、東西幅約13メートル、南北幅約18メートルを測り、全山がボク石で覆われている。登山道は正面部分に電光形に設けられており、その道筋ははっきりと確認できる。



この池袋富士塚は、明治45年（1912）6月に池袋月三十七夜元講によって築かれたものである。塚内に造立された講碑から、歴代先達の名前や近隣の富士講集団とのつきあいの様子が知られる。一般に富士塚の石造物は、頂上に奥宮、中腹向かって右には小御嶽社をあらわす石洞、中腹向かって左には烏帽子岩を配置するのを基本としている。池袋富士塚の石造物は、こうした特徴を備えているほか、經ヶ嶽（日蓮聖人ゆかりの霊地）を示す題目碑、合目石、講碑、教祖角行像、一対の天狗像、さらには御胎内に配

置されており、充実した石造物群を構成している。豊島区に残された数少ない富士塚のひとつとして、また池袋本町地区に展開した民間信仰を考えていく上でも貴重なことから、平成10年（1998）6月には東京都豊島区指定史跡となり、保存がはかられている。（東京都豊島区教育委員会資料より）

**合同防災訓練** 今年も夏を迎え、合同防災訓練の日が近づいてきました。今年各救援センター別に行います。是非ご参加ください。

日時：9月1日（日）9時～11時30分  
場所：池二小・文成小・池袋中の各救援センター校校庭  
※詳しくは各町会へお問い合わせください。